

ピックアップ事例



とねっと（平成24年稼働）

埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会（埼玉県加須市）

☎ 0480-63-0003

📄 [公式ホームページ](#)

※平成30年3月時点

（全体概要は令和2年2月1日時点の情報を掲載）

全体概要

- 概要
- 特徴
- 成功要因
- ネットワーク構築時の苦労
- 構築する方へのメッセージ

計画Step

- 1. 地域課題、要求事項の抽出
- 2. 必要性の検討
- 3. 事業概要の決定
- 4. 事業運営主体の組織の設置
- 5. 個人情報保護方針などの作成
- 6. ガイドライン・標準化規格などの確認
- 7. システム化方針決定
- 8. 事業計画・収支計画立案

構築Step

- 1. 工程管理
- 2. 仕様書作成・調達
- 3. 要件定義・設計
- 4. 構築
- 5. テスト

運用Step

- 1. 運用に向けた文書作成
- 2. システム運用保守体制決定

構築Step

1. 工程管理

システムワーキンググループおよび事務局が管理を行った。

2. 仕様書作成・調達

システムワーキンググループが中心となって仕様の詳細を詰め、平成23年にプロポーザルによってシステム事業者の選定を行った。

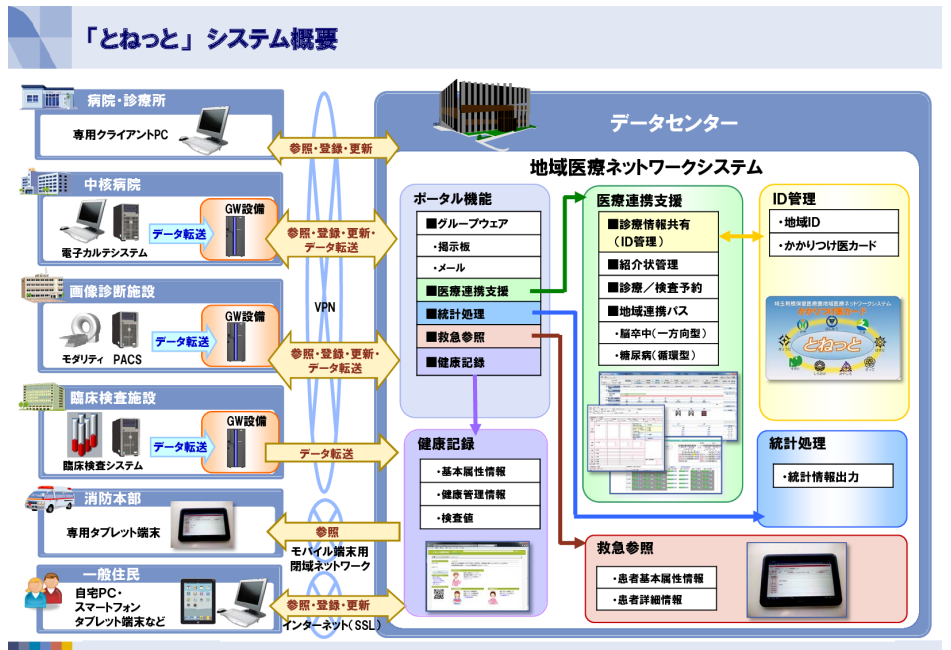
3. 要件定義・設計

図表：システム概要図

- 3. 参加機関の募集・説明・契約
- 4. 設備工事・導入
- 5. 参加患者募集
- 6. 評価・課題整理

更改Step

- 1. 改善事項検討



出所：埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会提供資料

主なユーザーは病院・診療所、中核病院、画像診断施設、臨床検査施設、消防、そして住民だ。

中核病院・画像診断施設・臨床検査施設に、施設外への情報公開用の専用ゲートウェイサーバーを設け、VPNを使って診療データ・検査画像を転送する。その他の病院・診療所は一部情報を更新することはできるが、自院の検査画像や処方データを共有することはできず、「とねっと」の主な用途は中核病院や臨床検査施設からのデータ参照となる。消防本部は専用タブレットで救急搬送時に処方や病歴など一部データを閲覧する。住民は健康記録機能に限って、情報を更新・閲覧できる。

4. 構築

電子カルテシステムを導入している中核病院、画像検査施設・臨床検査施設に専用サーバーを設置し、データ抽出と「とねっと」のデータセンターへの転送を行うシステムを構築した。

5. テスト

平成24年4月に仮稼働をスタートして、3ヶ月後の7月に本稼働とした。

- > 全体概要
- > 計画Step
- > **構築Step**
- > 運用Step
- > 更改Step

< ピックアップ事例一覧へ戻る

< TOPへ戻る

▶ 医療情報連携ネットワークはなぜ必要？

- ▶ 出発点は地域医療を良くしたいという思い
- ▶ 医療情報連携ネットワークの導入効果
- ▶ 利用者の声（導入効果）

▶ 医療情報連携ネットワークをどう作る？

- ▶ 医療情報連携ネットワークの構築手順
- ▶ 実施のポイント
- ▶ 利用者の声（苦労した点、成功要因）
- ▶ ガイドライン、書式例など

▶ 医療情報連携ネットワークの具体例を見る

▶ 医療情報連携ネットワークとは

- ▶ データで見る
- ▶ ピックアップ事例
- ▶ 事例を探す

▶ 構築手順

- ▶ 構築手順について
- ▶ Step1：計画
- ▶ Step2：構築
- ▶ Step3：運用
- ▶ Step4：更改

▶ FAQ

- ▶ 用語集
- ▶ お役立ち情報
 - ▶ リンク集
 - ▶ 資料ダウンロード